

収穫のピーク 春堀り長いも

例年になく春の訪れが早いなか、春耕の作業が本番を迎えました。ビートのポット作業、馬鈴薯、長芋の種子切り作業といった雪解けまでの作業を経て、畑のあちらこちらで耕起作業のトラクター音がこだまし、ビートの移植や馬鈴薯の植え付け作業が、4月下旬から始まっています。

その中、札内地区でも4月下旬から春堀り長いもの収穫作業が始まりました。収穫した長いものは1本ずつ丁寧にコンテナに詰められ、野菜選果場に運びこまれました。

長いもの秋堀りと春堀りとの大きな違いは完熟度にあります。低温貯蔵され、水分が抜けることでアクもぬけ、粘り気が強くなります。また、デンプン質が糖分に変わるため、凝縮された甘く濃い味を楽しむことができます。長いもの粘り気成分はムチンと呼ばれるもので、その効能は疲労回復、胃腸の調子を整える、抗ウイルス作用がある等様々です。

旬の野菜は栄養価も高いので、美味しくいただきましょう。



甘み増す！ やわらかゴボウ



今年も4月中旬に春堀りごぼうの収穫作業が行われました。ごぼうは耐寒性の強いことが特徴で、寒さに耐えることで糖度が増し、秋に収穫するごぼうより甘く、みずみずしく成長します。また、香りも強く、身が柔らかくなり、アクが少ない点も特徴の1つです。

出荷先は主に関西の市場が中心で、一部は道内へと出荷されます。

4月に入り気温も徐々に上がる中、天候にも恵まれて、春堀りごぼうの収穫のピークは札内地区では4月中旬となりました。

札内乳牛検定組合総会

札内乳牛検定組合の第 34 回定期総会がこのほど開かれ、新年度の事業計画について協議しました。

昨年の検定成績は札内の検定農家 17 戸の平均乳量で、9,561 kg、前年比 100.6%の伸び率となりました。

新年度については、検定事業の推進の他、経営改善指導、後代検定事業の推進、研修会の実施等に取り組む方針を決めました。



さくらんぼの会総会

J A 札内さくらんぼの会の 26 年度総会がこのほど開かれ、介護ボランティア活動計画について話し合いました。同会は特別養護老人ホーム札内寮のイベントやデイサービスの支援ボランティア、J A 札内組合員家庭の 80 歳以上の高齢者を招いた「ふれあい会」の事業を実施。新年度はこれらに加え、会独自の研修会を企画し、会員の資質向上や新規加入の促進に努めていく方針が確認されました。

